

平成 22 年度第 1 回

恵那市外部評価試行委員会議事録（要約版）

日時：平成 22 年 10 月 27 日（水）15 時 00 分～

場所：中公民館 第 3 会議室

1. 委嘱書の交付
2. 自己紹介
3. 市長あいさつ
4. 委員長・副委員長の互選
5. 委員長・副委員長あいさつ
6. 会議の公開・会議録の公表について（確認）
7. 恵那市外部評価試行委員会について
8. 議事
 - ①恵那市の行政評価について
 - ②評価の方法について
9. その他

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦 柴英子 田口譲 竹内泰夫 柘植麻美 服部ゆかり 宮地政臣

【執行部】副市長 三宅良政

【事務局】企画部長 小嶋初夫 企画課長 西尾昌之 企画課係長 福平栄久 企画課主査 梶村一之

1. 委嘱書の交付

〔 副市長より各委員へ委嘱書を交付 〕

2. 自己紹介

〔 各自自己紹介 〕

3. 市長あいさつ（代理：副市長）

■副市長 本来ならば市長からあいさつを申し上げるが、公務で外出しているので代わってあいさつをさせていただきます。この度は外部評価試行委員をお受けいただき厚くお礼申し上げます。恵那市では平成 18 年に行政評価を取り入れ 4 年間実施してきて、平成 21 年度は 31 施策の施策評価と約 600 事業の事務事業評価を行っている。今回外部評価というものを取り入れたのは、時代の流れというものもあるが、それ以上に皆さん方に事務事業を評価していただくことによって、内部で行っている評価の信頼性・客観性をより向上させるためである。また、内部の行政評価委員会で議論を重ねて評価の方法を考えてきたが、その方法が正しいのかどうか、皆さま方の意見をいただいて、より良い外部評価制度の仕組みを作りたいと考えている。市民から見た恵那市の事業はどうかご教授いただいて、恵那市の行政に生かしていきたい。

4. 委員長・副委員長の互選

■事務局 委員長・副委員長は委員の互選ということになっているが、意見があるか。

■委員 皆様のご賛同がいただければ指名をしたいと思う。

〔異議なし〕

■委員 それでは委員長は市川美彦委員、副委員長は柘植麻美委員にお願いしたい。

■事務局 委員長に市川美彦委員、副委員長に柘植麻美委員という意見をいただいたが、よろしいか。

〔異議なし〕

■事務局 それでは委員長は市川美彦委員、副委員長は柘植麻美委員にお願いする。

5. 委員長・副委員長あいさつ

■委員長 副市長より話があったが、この委員会はあくまで試行。この結果、外部評価をどのようにしていくかを考える。試行といっても 4 つの事業を評価するなかで、本試行に向けて議論していく責任があるのではないかと考える。皆さんの忌憚のないご意見とご協力をお願いしてあいさつとする。

■副委員長 行財政改革審議委員などをやらせていただいている中で、遠いところで動いていた恵那市の行政がだんだん近くなってきて、いろいろなことが気になるようになってきた。この度、副委員長という役を仰せつかったのでよりいっそう恵那市について考え、客観的に物事を見ていきたいと思う。

6. 会議の公開・会議録の公表について（確認）

7. 恵那市外部評価試行委員について

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

8. 議事

① 恵那市の行政評価について

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■委員 3 ページを見ると、平成 17 年度から 21 年度は終わったようになっているが、行政内部で既に評価したものを評価するのか。（蒸し返すようなことをするのか？）

■事務局 平成 21 年度は約 600 の事務事業、31 施策について内部評価を行っており、内部で評価したものを市民の皆さんの目で評価していただく。

■委員 既に結果の出ているものの評価でよいのか。また、H21 事業の評価ということで 1 年遅れではないか。

■委員長 市民目線で、自由にいろんな角度で評価することが大事だと考える。

■事務局 今回は事後評価で行うが、今後の検討で事前評価を行うなどの考え方もある。

■委員 今回は試行で行うということであるが、H27 年度以降の財政規模は、今よりも 70 億円ぐらいスリム化が必要になる。200 億円ぐらいの財政規模にしないと経営として成り立たない。

■委員長 行財政改革の推進状況を見つつも、この委員会では自由に議論していくことが大事である。

■委員 試行ということであるが、評価の視点についても評価していくということか。

■事務局 そのとおり。

■委員 この話を聞いたとき行政範囲が広いので大変であると感じた。2 ページにある行政評価分類の事務事業評価を行うということでよいのか。

■事務局 そのとおり。

■委員 行政評価については基本的にこれでよいと思う。行政と市民でむしろ違う評価結果が出たほうが、お互いのズレが分かってよい。

■委員 たくさんある事業の中で 4 つの事業を選んだ理由は何か。将来的にすべての事業

を行うのか。

■事務局 試行ということであらかじめ市役所内の各部で1事業を選定し、さらにその中から4事業に絞り込んだ。選定方法は行政側の視点、市民側の視点を推測して抽出。

■委員 初めにこの話を聞いたときは大変なことだと感じた。これから市民目線でじっくりやっていきたい。

②評価の方法について

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員 評価のテクニックはいっぱいあると思うが、大事で難しいのは数値で表せない評価で、これが定性的評価だと思うが、判断が難しい。事業の目的や経過などを良く聞かないと分からない。

■委員長 資料3・4は関連があるが、この試行委員会で、次回は事業内容について説明や捉え方を聞く。資料5は目を通し、自分なりの評価をすることが大事。

■事務局 評価できない項目については、その理由を判断理由に書いてもらうこととしている。

■委員 600事業から4事業を選定した理由は。

■事務局 まず各部長より評価にふさわしいと思われる事業を1つずつ出してもらった。この時点で9事業になる。さらに内部の行政評価委員会で行政からみて必要かどうか、また市民からみて必要かどうかの組み合わせで4事業に絞った。

■委員 決算後（議会の承認後）にこの評価を行ってもあまり意味がない。今後は決算審査前に行うべきである。

■委員長 過渡期の中での試行ということであり、4事業の評価を行った後に、評価を行う時期を含めてこの委員会として提言していく。

9. その他 次回開催予定日について

■事務局 今後の予定を決めたいので、皆さんの予定を教えてください。

〔第2回 平成22年11月12日（金）午後2時～〕

〔第3回 平成22年11月29日（月）午後2時～〕

■事務局 場所は後日調整して連絡する。

〔 閉 会 〕